

社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時 11月20日（火）5校時

1 単元名 特設単元 「文化から振り返る近世社会の移り変わり」

2 単元の考察

本単元は、近世のまとめとして、近世の学習の最後に特設単元として設けたものである。本単元で扱う近世とは、織田信長・豊臣秀吉の天下統一事業から、天保期までのことをさす。近世の時代像をつかもうとする時、その特色を大きく2つ挙げるができる。1つは、支配体制として、統一的な武家政権が一律の基準によって地方分権的に全国を支配するしくみ（幕藩体制）ができたことである。もう1つは、武士、百姓、町人といった各身分の役割分担が明確に決められた身分制社会だったということである。ただ、その社会の様子は時期によって異なっており、その変貌を読み解いていくことが、近世という時代に対する歴史認識を構築するうえで大切だと考える。そこで、本単元では、文化を切り口にして、近世社会の変容を振り返っていききたい。なぜ、文化に着目するのかというと、文化にはそれが生まれた時代像が反映されているからである。また、時代の特色を考える際に頭に浮かぶのは、政治や経済の動きよりもまず文化であると考えからである。例えば、今私たちが生きる時代の特色を考える時、首相や政策などよりも、ファッションや価値観、スマートフォンなど人々の間に普及しているものなどに着目していったほうが分かりやすい。前単元までの近世学習では敢えて文化を扱ってこなかった。それは、近世学習のまとめとして位置付けられた本単元において、前単元まで構築してきた近世の時代像を、文化からとらえ直すことを通して、近世社会の変貌を読み解き、より深い歴史認識に到達できるようにしたいと考えたからである。なお、文化には、絵画、建築、思想など様々なものがあるが、本時で扱うものは、「時代を特徴づける人々の考え」とする。なぜなら、思想面の方が、生徒が史料から読み取った内容と、自身が持つ時代像とを関連付けてとらえさせやすいと考えたからである。以下に、近世社会の変貌をとらえるための枠組みとなる、近世の前期・中期・後期の3つの時期の時代像について述べる。

前期は織豊期～寛永期で、桶狭間の戦い（1560年）から江戸幕府の成立を経て、3代将軍家光が没する（1651年）までがあたり。この時期に信長・秀吉による天下統一事業が行われ、大名、寺社、公家など様々な勢力が各地を支配するという中世的な支配体制が改められ、統一的な武家政権が石高という統一的な基準により全国が支配されることになった。江戸幕府はこの支配体制を幕藩体制として確立し、約260年にわたる天下太平の世を実現していくことになった。また、秀吉の兵農分離政策によって、支配者の武士、被支配者の町人や百姓といった身分が確定していった。このような時代背景のもと、林羅山や鈴木正三などの思想家が登場する。林羅山は、江戸幕府の創設期に3代の将軍に仕え、朱子学の立場から、封建社会の安定を願い、身分秩序の重視を説いた。鈴木正三は仏教者として幕府の支配秩序を支えるとの考えから、「職分仏行説」を説いた。これは、武士、百姓、町人がそれぞれの身分において社会のために役割を担っており、それを勤めあげることが成仏のための修行であると説いた。また、三浦茂正によって仮名草子の『慶長見聞集』が書かれたが、戦乱の時代が終わったため、手習いをする人々が増えたことなど、江戸幕府成立期の江戸の人々の生活の様子などを知ることができる。このように、前期は、戦乱の世が終わり、幕藩体制・身分制社会といった近世社会の土台が築かれた時期としてとらえることができる。

中期は元禄期～宝暦期で、5代将軍綱吉が就任して（1651年）から、老中田沼意次が失脚する（1786年）までである。この時期は、大阪の陣、島原・天草一揆を経て、国内の戦争状態が終結し、天下泰平の世の始まりとなった。幕府は年貢の増収を図るために新田開発を進め、農業生産力が向上した。これは、商品作物の生産の増大、商工業の発展につながり、人々の経済活動の舞台となった都市が繁栄した。特に、全国からの物資の集積地となった大坂が繁栄し、上方の商人の成長を反映した元禄文化が栄えた。一方、貨幣経済の広まりの中で、米価が低迷する中、俸禄米を換金して生活する武士の生活は苦しくなり、幕府や藩も支出の増大などにより財政難に陥り、財政再建のための政策が求められることになった。このような中、商人の成長を背景として、石田梅岩が心学を広めた。これは、社会にとって士農工商いずれの身分も必要であることを説き、特に当時世の中で商業が蔑視されていた風潮の中で、商売によって利益を得ることを肯定するとともに、商人のあるべき姿として、自他共に共存していく姿勢が必要であると説いた。井原西鶴は『日本永代蔵』の中で、貨幣経済の発展を背景に町人が経済力をつけ、身分ではなく財力が人間を評価する判断基準であるという考えが主張されるようになった社会の様子をえがいている。また、貝原益軒は、『養生訓』や『寺子教訓書』を著し、人々の生活に有益な実学を重んじ、長生きや人生を楽しむこと、百姓が学問に励むことの必要性を説いた。このように、中期は、江戸幕府の支配が安定し、飛躍的な経済発展が都市を中心にもたらされた一方、武士にとっては財政が窮乏し、幕藩財政の再建が求められた時期としてとらえることができる。

後期は寛政期～天保期で、老中松平定信が就任して（1786年）から、老中水野忠邦が失脚する（1843年）までである。この時期は、貨幣経済の浸透が農村における階層分化や都市における町人の大幅な成長がみられた。このような中で貧富の格差が広がると、都市や農村の下層民たちは、自然災害などにより困窮するたびに、生活の向上のために一揆や打ちこわしを頻繁に起こした。また、武士の中にも生活に困り、被支配階級の町人から借金をする者が現れたことは、これまでの支配体制の揺らぎを示していた。老中松平定信は、『宇下人言』で、飢饉によって百姓が困窮して農村が荒廃し、人々が江戸に流入するというありさまや、貨幣経済の浸透により武士が経済苦にあえぐ反面、町人が武士をしのぐ力をつけていったことを問題視している。また、『遠野唐丹寝物語』より三閉伊一揆で百姓が言った言葉には、百姓が天下の人々の命を養っているという考えから、人々の平等を主張するものもあらわれている。対外的には、産業革命を経た欧米諸国がアジア地域に進出する中で、日本にも通商を求めて接触をしていくという事態が生じた。天保期に登場し、蘭学を学んで海外事情にも明るかったといわれた高野長英は『戊戌夢物語』で日本人漂流民の送還と通商のために来航したアメリカ船モリソン号を幕府が打ち払ったことを批判し、蛮社の獄で処罰された。この本は、識者の間で伝写されたり、『夢物語評』や『夢々物語』等関連した書籍があらわされるなど、かなりの社会的反響を呼んだとされている。幕府はこのような内憂外患に対処するために寛政の改革や天保の改革を行ったが、十分な効果を挙げることができずに終わった。これらの改革は8代将軍徳川吉宗が行った享保の改革と並んで江戸幕府の3大改革と呼ばれているが、その性格は異なるものである。享保の改革が幕府の財政再建を目的としていたのに対し、寛政・天保の改革は幕藩体制を揺るがす危機を打開するためのものだった。この時期の文化は化政文化とよばれ、文化の中心が上方から江戸に移り、都市の文化が地方にも広まり、政治や世相を皮肉る川柳や狂歌が流行り、学問では蘭学や国学が発展した。このように、後期は内憂外患により、江戸幕府の支配が動揺を見せいていた時期としてとらえることができる。

以上を踏まえ、本単元を以下のように構成する。まず第1時では、史料を近世の3つの時期に分類させる。その分類に関して、前単元までに構築してきた近世の各時期の時代像を根拠として示して仮説を立てさせ、議論をさせる。授業で扱う史料は、前期が①林羅山の朱子学、②鈴木正三の職分仏行説、③『慶長見聞集』の3点である。①・②の思想は、生徒にとって身分社会・幕藩体制の成立といった近世

の前期の特色と結びつけて考えやすいと予想できる。③は史料として取り上げている部分は、現在は戦乱が終わって平和になったことが書かれているため、近世の始まりの時期であることは容易に考えられる。続いて、中期の史料は、④石田梅岩の心学、⑤井原西鶴の『日本永代蔵』、⑥貝原益軒の『養生訓』『寺子教訓書』の3点である。④、⑤ともに天下泰平の世のもとで町人が経済成長した様子と結びつけて考えることができると予想できる。⑥は、教育の重要性が説かれたところから、学問に励み、身分制社会の中で確実に役割を果たしていくことが求められるようになった事と結びつけて考えることができる。最後に、後期の史料は、⑦高野長英の『戊戌夢物語』、⑧『遠野唐丹寝物語』より三閉伊一揆で百姓が言った言葉、⑨松平定信の『宇下人言』の3点である。⑦は、外国船の来航という新たな外圧に幕府が対応を迫られていく状況と結びつけて考えられると予想できる。また、⑧は人々の平等を主張しており、江戸幕府の支配を支えてきた身分制社会とは反する思想である。⑧・⑨ともに身分制社会の動揺といったこの時期の時代像と結びつけて考えられると予想できる。

次に第2時では、第1時で立てた仮説を踏まえ、時期ごとに、史料に反映されている社会の様子について、生徒とのやりとりの中で確認をしながら分類を行っていく。そして最後に各時期の文化の特色について自分の言葉で表現させる。ここでは、近世の3つの時期の文化の特色について、幕藩体制が確立した前期から、政治が安定し、経済成長が進んだ中期、そして、貨幣経済の浸透や内憂外患により支配体制が揺らいでいく後期へと変貌していく近世社会の時代像と結びつけてとらえていくことを通じて、より深い歴史認識に到達できると考えている。

そして第3時では、第1時・第2時で学習した思想と各時期の文化に関する作品を関連付けて、近世の文化の特色を見ていきたい。ここでは、近世の文化について、前期…桃山文化、中期…元禄文化、後期…化政文化という枠組みでとらえさせ、それぞれの文化の様子があらわれている史料を読み取る活動を通して、それらの文化の特色をとらえていく。各文化については、時期、担い手、栄えた場所の変化に着目してとらえていく。そして、最終的には近世の文化全体として、中世までの文化に強く見られた仏教の影響が薄れ、人々の生活と結びついた世俗的な文化であったという認識に到達させたいと考えている。

3 近世前期・中期・後期の学習の単元構成

(1) 前期

前期では、「近世はなぜ平和な時代になったのか」という単元を貫く課題を設定した。この課題の追究を通して、前期には天下人が中世に寺社勢力などが持っていた権威を否定し、強大な軍事力と経済力をもって全国を統一し、身分制度や幕藩体制など支配体制の整った政権を形成していったという歴史認識に到達したと考える。以下が単元の指導計画である。

時	題材	学習内容
1	近世になって平和な時代が続いた理由を考えよう ①—近世の学習テーマをつかむ—	<ul style="list-style-type: none"> ・織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が行ったことに関する既習事項を確認する。 ・近世と中世を比較し、近世には戦乱がほとんどないことをつかむ。 ・近世前期の学習課題「近世はなぜ平和な時代になったのか」をつかむ。
2	近世になって平和な時代が続いた理由を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・天下人が、戦乱を勝ち抜くことができた理由を考える。 ・参勤交代の事例から、江戸幕府の強大な軍事力を把握する。

	②—軍事力編—	<ul style="list-style-type: none"> ・秀吉の惣無事令より、天下人の公儀権力としての性格をつかむ。 ・武家諸法度を読み、江戸幕府による大名統制の仕組みを把握する。 <p>→天下人は、強大な軍事力を背景に、公儀権力として全国の大名を支配した。</p>
3	近世になって平和な時代が続いた理由を考えよう ③—経済政策編—	<ul style="list-style-type: none"> ・楽市令や関所の廃止、太閤検地を取り上げ、天下人の経済政策が、中世のどのようなシステムを壊したのかを考える。 ・江戸幕府が広大な幕領を持ち、圧倒的な経済力を持っていたこと確認する。 <p>→天下人は、経済政策によって中世に力を持っていた寺社勢力などから経済力を奪い、強大な経済力で他の勢力を圧倒した。</p>
4	近世になって平和な時代が続いた理由を考えよう ④—身分制度編—	<ul style="list-style-type: none"> ・太閤検地により、兵農分離が進んだことを確認する。 ・ ・江戸時代の身分制度を確認する。 ・身分に応じた役を課されていたことを知る。 <p>→近世の身分制度により、人々は身分に応じた役を課され、社会が安定した。</p>
5	近世になって平和な時代が続いた理由を考えよう ⑤—宗教統制編—	<ul style="list-style-type: none"> ・延暦寺焼き討ち、26 聖人殉教から、天下人が宗教勢力を統制しようとしたことを確認する。 ・中世の仏教勢力が、強大な経済力、軍事力、技術を持っていたことを確認する。 ・寺社法度を見て、江戸幕府は仏教の統制をはかったことを確認する。 ・出島を見て、江戸幕府がキリスト教を禁止したことを確認する。 <p>→天下人は宗教統制により、宗教勢力の世俗的な力を排除した。</p>
6	近世になって平和な時代が続いた理由を考えよう ⑥—対外関係編—	<ul style="list-style-type: none"> ・朱印状を見て、江戸時代に外国と貿易を行っていたことを確認する。 ・江戸幕府が四つの口を通じて、貿易を行っていたことを確認する。 ・朝鮮通信使が幕府の権威づけのために利用されたことを確認する。 <p>→外国との貿易や外交を統制することで、天下人以外の勢力に力を持たせることを防いだ。また、独占した外交権を使って、自らの権威付けを行った。</p>
7	近世になって平和な時代が続いた理由を考えよう ⑦—まとめ—	<ul style="list-style-type: none"> ・『江戸図屏風』『日光東照宮』『豊国神社』などの資料から、天下人が自らを神格化したことを確認する。 ・これまで学習してきた内容から、近世初期の時代像を作り上げる。

(2) 中期

中期では、「米の値段はなぜ下落していくのか？～米価下落は社会にどのような影響をもたらすのだろうか～」という単元を貫く課題を設定した。この課題の追究を通して、中期には町人が経済的に豊かになる一方で、武士階級は財政難に直面し、財政再建のための幕政改革が実施されたがうまく機能しなかったという歴史認識に到達したと考える。以下が単元の指導計画である。

時	題材	学習内容
1	米の値段はなぜ下落して	・資料を見て、米価が他に比べて低くなっていることを確認する。

	いくのか？～米価下落は社会にどのような影響をもたらすのだろうか？～①—学習課題をつかむ—	<ul style="list-style-type: none"> ・近世中期の学習課題「米の値段はなぜ下落していくのか？～米価下落は社会にどのような影響をもたらすのだろうか～」をつかむ。 ・新田開発や農具の改良により、米の生産量が増加した結果、米価が安くなったことを確認する。
2	米の値段はなぜ下落していくのか？～米価下落は社会にどのような影響をもたらすのだろうか？～②—町人の成長—	<ul style="list-style-type: none"> ・商品作物の値段が米と比べて高いことを確認する。 ・近世の経済のしくみを理解する。 ・貨幣獲得のため、商品作物の生産が盛んになったことを確認する。 ・商品作物の生産が向上したことにより、諸産業の発達や全国的な流通、都市の発達が見られ、町人層が成長したことを確認する。
3	米の値段はなぜ下落していくのか？～米価下落は社会にどのような影響をもたらすのだろうか？～③—武士の困窮—	<ul style="list-style-type: none"> ・町人が成長する一方で、武士が困窮していることをつかむ。 ・徳川綱吉の政治を通して、武断政治から文治政治に転換したことを確認する。 ・貨幣経済の広がりや米価の下落により幕府・藩財政、武士が困窮したことを確認する。
4	米の値段はなぜ下落していくのか？～米価下落は社会にどのような影響をもたらすのだろうか？～④—幕政改革—	<ul style="list-style-type: none"> ・財政再建のために幕政改革が行われたことを確認する。 ・徳川吉宗が享保の改革で年貢増収、支出削減のために行った政策について確認する。 (新田開発、上米の制、儉約令) ・田沼意次の重商主義政策について確認する。 (商人資本の活用、幕府貿易の活性化)
5	米の値段はなぜ下落していくのか？～米価下落は社会にどのような影響をもたらすのだろうか？～⑤—まとめ—	<ul style="list-style-type: none"> ・「上野浅草風俗絵巻」の花見の様子などの資料を持って武士、町人、百姓の生活の変化をつかむ。 ・これまで学習してきた内容から、近世中期の時代像を作り上げる。

(3) 後期

後期では「なぜ江戸時代後期にも引き続き改革が行われたのだろうか」という単元を貫く学習課題を設定した。この課題の追究を通して、後期には貨幣経済の浸透により貧富の差が広まったり、欧米諸国の接近により幕府が対応を迫られる中で、幕府の支配が動揺していたという歴史認識に到達したと考える。以下が単元の指導計画である。

時	題材	学習内容
1	なぜ江戸時代の後期にも引き続き改革が行われたのだろうか① ～寛政の改革編～	<ul style="list-style-type: none"> ・年表を見て、近世後期に改革が相次いで行われていることに気づき、学習課題「なぜ江戸時代の後期にも引き続き改革が行われたのだろうか」を確認する。 ・寛政の江戸の打ちこわし被検挙者一覧から改革の内容を確認し、社会政策や対外政策などそれまでの政治とは異なることをしたことをとらえる。
2	なぜ江戸時代の後期にも引き続き改革が行われた	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸の打ちこわし被検挙者一覧から店借が多いことに着目し、その生活のすがたをつかむ。

	のだろうか② ～打ちこわしの犯人は？ 編～	・江戸の打ちこわし被検挙者一覧から、無宿に着目し、それが農村における格差の広がりによって生じてきたものであることつかむ。
3	なぜ江戸時代の後期にも 引き続き改革が行われた のだろうか③ ～迫り来る外国編～	・外国船の接近と幕府の対応、外国船のとった態度について年表にまとめる。 ・幕府がラクスマンに対して通商を拒否した理由を考える。 ・異国船打ち払い令を出した理由を考える。
4	なぜ江戸時代の後期にも 引き続き改革が行われた のだろうか④ ～天保の改革編～	・天保の改革と寛政の改革を比較し、社会の変化をとらえる。 ・天保のききんや大塩の乱、アヘン戦争など天保の改革の背景を理解する。 ・天保の改革が行われた理由を考え、それが失敗に終わったことを理解する。
5	なぜ江戸時代の後期にも 引き続き改革が行われた のだろうか⑤ ～まとめ～	・江戸時代中後期の政治改革の変化を読み取り、その理由を考え、意見交換を行う。 ・江戸時代後期がどのような時代だったのかを個人で考え、その後、学級で1つのまとめをつくる。

5 単元の目標

- ・近世の文化に興味を持ち、意欲的に活動に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・近世の文化の特徴について、幕藩体制の確立、安定、動揺といった、近世社会が変貌していった様子を背景としてとらえ、表現することができる。(思考・判断・表現)
- ・近世の様々な文化作品に関する史料を見て、近世社会の変化の様子を理解することができる。(知識・技能)

6 単元の指導計画 (3時間扱い)

時	学習内容	指導上の留意点
1	○文化から振り返る近世社会の移り変わり① ・近世に生まれた思想に関する史料を読み取り、時代像を踏まえて3つの時期に分類し、仮説を立て、議論する。	・仮説の根拠として、その時期の時代像を踏まえることができるようにする。 ・読み取る史料を班ごとに分担。各班3点ずつ。(分担外の史料も渡しておく)
2 (本時)	○文化から振り返る近世社会の移り変わり② ・第1時で立てた仮説について、3つの時期の時代像を踏まえて確認をし、どの時期の文化か確認をしていく。 ・思想から振り返ることを通して、近世社会が移り変わってきた様子を振り返り、表現する。	・文化の変容と、近世社会の移り変わりを関連付けられるよう、前後の時期の文化の変容に着目させる。

3	<p>○文化から振り返る近世社会の移り変わり③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近世の文化の枠組みを理解する。(前期…桃山文化、中期…元禄文化、後期…化政文化) ・近世の文化について、各時期の文化の様子があらわれている資料の読み取りを通して、その特色をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各時期の文化について、時期・栄えた場所、担い手の変化に着目してとらえられるようにする。 ・近世の文化について、各時期の時代像と結びつけてとらえさせる。 ・近世の文化全体の特色をつかませる。
---	---	---

7 第1時の授業

(1) 題材名 文化から振り返る近世社会の移り変わり①

(2) 目標

- ・近世の思想を分類する活動に意欲的に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・史料の内容をそれが生まれた時代背景と結びつけて、それぞれの思想が生まれた時期について考察することができる。(思考・判断・表現)

(3) 展開

指導過程 (時配)	学習内容と活動	留意点及び評価 (◇)
<p>導入 (5分)</p> <p>課題把握 (3分)</p>	<p>○「東大寺の大仏」の写真を見て、いつの時代に造られたものか確認する。主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代 <p>○「東大寺の大仏」には、奈良時代のどのような特色が表れているか考える。主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教の力で社会の安定を図ろうとした。 <p>⇒文化を見ていくことを通して、その時代の特色を理解することができる。</p> <p>○文化には建築、絵画、思想など様々なものがあるが、本時では思想を扱っていくことを確認する。</p> <p>○本時では、「近世」という大きな視点で時代をとらえ、近世社会の移り変わりを思想を通して考える。主体的</p> <p>○「近世」はその社会の様子がちがいがから、【前期】【中期】【後期】 3つの時期に分けることができることを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、東大寺の大仏が造立されたのか、思い出させる。忘れていたようであれば教科書で確認する。 ・文化は時代を映す鏡であるということを認識させる。 ・各時期の特色については説明しない。近世の時期区分を確認するにとどめる。 ・思想を分類できることが、近世という時代を理解していることにつながるという意識を持たせる。
<p>課題追究 (40分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>史料を読み、近世のどの時期の思想か、根拠を考え、分類しよう</p> </div> <p>○近世の思想に関する史料ア～ケを確認する。</p> <p>《史料》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各班で分類する史料はA～Iの中からくじを引いて選ぶ。(3つの時期の史料がそれぞれ1つずつ入っている。)

8 第2時の授業（本時）

(1) 題材名 文化から振り返る近世社会の移り変わり②

(2) 目標

- ・近世の思想を時代像と結び付け、仮説を検証する活動に意欲的に取り組むことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・近世の各時期の思想の特色について、時代像を踏まえて自分の言葉で表現することができる。
(思考・判断・表現)

(3) 展開

指導過程 (時配)	学習内容と活動	留意点及び評価 (◇)
課題把握	<p>○本時では、前時で各班が立てた仮説が正しいかどうか、時代像を踏まえて検証する。</p>	<p>・ワークシートを配布する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">史料の分類について、仮説が正しいかどうか検証しよう。</div>		
課題追究 (48分)	<p>○史料アからアイウエオ順に、時代像と照らし合わせながら、仮説の検証をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で自分が分担しなかった6つの史料を前・中・後期に分類し、理由を考え、ワークシートに記入する。主体的 ・アの史料について検証していく。対話的 	<p>◇近世の思想と時代像を結び付け、仮説を検証する活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導の中で、誰がどのような理由で分類をしているか記録しておき、この後の検証の際に指名する生徒の目星をつけておく。 ・ワークシートの記入が終わったら、検証の前に第1時の分類の結果を提示する。 ・今どの史料について考えているか分かるよう、史料の記号を黒板に掲示するとともに、テレビで史料を提示する。 ・まず第1時で分担した班に理由を言わせる。 ・あえて正解とは外れている生徒を指名し、ゆさぶる。 ・1つの史料について検証終わったら、その都度正解を示していく。 <p>《正解に近い場合》…貧乏に着目させ、生活が苦しくなった後期ではないかと投げかける。</p> <p>《正解に遠い場合》…「町人」「金銀の量こそ一番の存在価値」などに着目させ、</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・イの史料について検証していく。 対話的 ・ウの史料について検証していく。 対話的 ・エの史料について検証していく。 対話的 ・オの史料について検証していく。 対話的 ・カの史料について検証していく。 対話的 ・キの史料について検証していく。 対話的 ・クの史料について検証していく。 対話的 ・ケの史料について検証していく。 対話的 	<p>中期の特色とつなげる。</p> <p>《正解に近い場合》…「仏」に着目していたら、近世はずっと仏教が広まっていたのではないかと投げかける。</p> <p>《正解に遠い場合》…「職」に着目させ、身分社会の成立といった前期の特色とつなげる。</p> <p>《正解に近い場合》…どの部分が後期のどのような特色とつながるのか問う。</p> <p>《正解に遠い場合》…農村の荒廃、生活苦に着目させ、後期の特色とつなげる。</p> <p>《正解に近い場合》…どの部分が前期のどのような特色とつながるのか問う。</p> <p>《正解に遠い場合》…「平和」「身分」に着目させ、前期の特色につなげる。</p> <p>《正解に近い場合》…身分について説かれているので前期ではないかと投げかける。イとの違いを問う。</p> <p>《正解に遠い場合》…「商人」に着目させ、中期の特色とつなげる。</p> <p>《正解に近い場合》…百姓の身分について説かれているので前期ではないかと投げかける。</p> <p>《正解に遠い場合》…「天下の民はみな同じ」に着目させ、後期の特色につなげる。</p> <p>《正解に近い場合》…どの部分が後期のどのような特色とつながるのか問う。</p> <p>《正解に遠い場合》…外国船の接近に着目させ、後期の特色につなげる。</p> <p>《正解に近い場合》…けんかせずとあるが、平和な世になった前期ではないかと投げかける。</p> <p>《正解に遠い場合》…「長生き」「万用」などに着目させ、中期の特色につなげる。</p> <p>《正解に近い場合》…どの部分が前期のどのような特色とつながるのか問う。</p> <p>《正解に遠い場合》…「身分」に着目させ、前期の特色につなげる。</p>
--	--	---

○検証の結果をもとに、前期・中期・後期の思想の特色を考え、ワークシートに記入する。**主体的**

- ・自分の考えを発表する。(2～3名)
(予想される生徒の答え)

前期…身分の上下、役、政治のあり方など新たな支配体制を支える思想が広まった。

中期…商業を重視したり、商人のあり方を説く思想が広まった。また、長生きが大切であることや学問の重要性が説かれた。

後期…幕府の対外政策を批判したり、身分社会を否定するような思想、武士をしのぐ力をつけた商人の姿が見られた。

まとめ
(2分)

○教師による振り返り

- ・思想から振り返ることで、近世社会の移り変わりを見てとることができる。次回は、本時を踏まえ、近世の文化の特色を学習していく。

◇近世の各時期の文化の特色について、時代像を踏まえて自分の言葉で表現している。

- ・机間巡視し、史料から読み取れる時代像を反映させている生徒を2～3名ピックアップする。
- ・生徒が発表した思想の特色を板書し、文化の変化してきた様子が目に見えるようにする。

(4) 板書計画

<p>学習課題：史料の分類について仮説が正しいか検証しよう。</p> <p>□はどこの時期だろう！？</p> <div style="text-align: center;"> <p>クラスから出た意見</p> <p>前期 中期 後期</p> <p>-----</p> <p>生徒から出た意見</p> <p>-----</p> </div> <p>クラスのまとめ</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 2px;"> <p>前期 全国を統一的に支配 身分の上下 役など 平和な社会</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 2px; text-align: center;"> <p>→</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 2px;"> <p>中期 経済発展・町人の成長 商人のあり方 商業重視 長生き 学問</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 2px; text-align: center;"> <p>→</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 2px;"> <p>後期 内憂外患・幕藩体制動揺 農村の階層分化 对外政策批判 身分否定</p> </td> </tr> </table>	<p>前期 全国を統一的に支配 身分の上下 役など 平和な社会</p>	<p>→</p>	<p>中期 経済発展・町人の成長 商人のあり方 商業重視 長生き 学問</p>	<p>→</p>	<p>後期 内憂外患・幕藩体制動揺 農村の階層分化 对外政策批判 身分否定</p>	<p>1班・・・・・・・・・・9班</p> <hr/> <p style="text-align: center;">前・中・後期に分類 したカード</p> <hr/> <p style="text-align: center;">仮説</p>
<p>前期 全国を統一的に支配 身分の上下 役など 平和な社会</p>	<p>→</p>	<p>中期 経済発展・町人の成長 商人のあり方 商業重視 長生き 学問</p>	<p>→</p>	<p>後期 内憂外患・幕藩体制動揺 農村の階層分化 对外政策批判 身分否定</p>		

9 第3時の授業

(1) 題材名 文化から振り返る近世社会の移り変わり③

(2) 目標

- ・近世の文化に関心を持ち、その特色を考える活動に意欲的に取り組むことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・桃山文化、元禄文化、化政文化の特色を踏まえ、近世という大きな枠組みで文化の特色を理解することができる。
(知識・技能)

(3) 展開

指導過程 (時配)	学習内容と活動	留意点及び評価 (◇)
<p>導入 (3分)</p>	<p>○提示された写真を見て、何をしているか考える。 →歌舞伎</p> <p>・歌舞伎のように、近世に生まれ、現代でも人々に親しまれている文化が多くある。</p>	<p>・歌舞伎の写真をテレビで提示する。</p>
<p>課題把握</p>	<p>○本時では、これまでの学習内容を踏まえ、近世の文化の特色をつかんでいく。</p> <p>・近世は前期、中期、後期に区分できることを確認する。本時ではそれぞれの時期の文化を桃山文化、元禄文化、化政文化という枠組みでとらえていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>近世の文化はどのようなものだったのか。</p> </div>	
<p>課題追究 (45分)</p>	<p>○中世の文化の特色を考える。</p> <p>・教科書 p 74、86 を開き、鎌倉文化や室町</p>	<p>・教科書に掲載されている写真に着目させ、どのような要素が強いか、担い手</p>

<p>まとめ (5分)</p>	<p>文化の特色・担い手を確認する →寺院、仏像など仏教関係が多い。中世の文化は仏教色が強い。担い手は将軍など権力者や寺院。</p> <p>○桃山文化の特色を考える。</p> <p>①「姫路城」「松本城」と「中世の城」の写真から見えてくる桃山文化の特色を考える。 →前者には天守閣がある。壮大。(統一権力につながる権威の象徴)</p> <p>②「黄金の茶室」から見えてくる桃山文化の特色を考える。 →豪華。大名や豪商を担い手とする。(茶道を大成させた利休は堺の豪商出身)</p> <p>○元禄文化の特色を考える。</p> <p>①井原西鶴の浮世草子から見えてくる元禄文化の特色を考える →上方の町人の生活をえがいている。</p> <p>②「浮絵劇場図」から見えてくる元禄文化の特色を考える →歌舞伎を上演している。武士、男女の町人など様々な人々に受け入れられた。</p> <p>○化政文化の特色を考える</p> <p>①「江戸両国橋夕涼大花火之図」から見えてくる化政文化の特色を考える。 →花火の見物に男性女性、子どもなど様々な人々が来ている。店も並び、多くの人で賑わっていることから江戸の庶民を担い手としている。</p> <p>②「解体新書」から見えてくる化政文化の特色を考える。 →蘭学の広まり。</p> <p>○中世との違いに着目して近世の文化の特色をまとめ、発表する。</p> <p>☆近世の文化の特色…それまでの仏教色がうすれ、庶民を担い手とする世俗的な文化であった。</p>	<p>は誰か考えるよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真はパワーポイントを用いてテレビに提示する。 ・桃山文化については、天下人による統一的な政権の誕生を背景として特色をとらえさせる。 <p>◇近世の文化に関心を持ち、その特色を考える活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手や規模の大きさに着目させる。 ・元禄文化については、上方の町人の経済成長を背景として特色をとらえさせる。 ・担い手、文化の中心地、内容の特色をとらえさせる ・化政文化については、江戸の経済発展や幕藩体制の動揺を背景として特色をとらえさせる。 ・中心地、担い手、内容の特色をとらえさせる。 <p>◇近世という大きな枠組みで文化の特色を理解している。</p>
---------------------	---	---